

(参考様式3)

会 議 録

| | | | | | |
|---|--|----------------------|--|------|----|
| 会議の名称 | 第5回サンパルネ市民運営会議 | | | | |
| 開催日時 | 平成24年5月30日 午後7時～午後9時 | | | | |
| 開催場所 | 東村山市市民ステーション「サンパルネ」2階会議室 | | | | |
| 出席者 及び欠席者 | ●出席者： (委員) 吉野卓夫会長、小山仙蔵副会長、宮崎真吾委員、市川暢男委員、 金沢紀男委員、関澤高親委員、金子茂生委員、東京ドームグループ和島支配人、 富田副支配人、原市民部次長、田中健康福祉部次長 (市事務局) 原子健康課長、大沼健康課長補佐、竹部産業振興課長補佐、清水庶務係長、庶務係一鈴木 ●欠席者： 福田博元委員、島田弘之委員、渡邊潤委員 | | | | |
| 傍聴の可否 | 傍聴可能 | 傍聴不可 の場合は その理由 | | 傍聴者数 | 1名 |
| 会議次第 | 1) 開会 2) 議題 ① サンパルネの実績報告 地域サービス窓口 産業・観光案内コーナー 東京ドームグループ 利用者アンケート ② 菖蒲まつり ③ その他の課題 3) 次回予定 | | | | |
| 問い合わせ先 | 健康福祉部健康課庶務係 担当者 鈴木 電話番号 042-393-5111 (内線3213) ファックス番号 042-394-7399 | | | | |
| 会 議 経 過 | | | | | |
| 1) 開会 健康課長あいさつ (省略) 会長あいさつ (省略) 交代した委員・事務局の紹介 傍聴人が1名希望者あり、公開を確認、傍聴を許可。 議題 ①サンパルネの実績報告 地域サービス窓口の実績 表1を参照 市民部次長：地域サービス窓口の発行した手数料の件数ですが、月平均で、平成22年度が587件、平成23年度が749件、平均で1カ月あたり168件の増となっています。他の地域サービス窓口が平成22年 | | | | | |

度と平成23年度がほぼ同数なので、周知がなされ、利用者が増えたと推測・分析できます。

今年の4月から、図書の返却を始めさせていただきました。月から金曜日の午前8時30分から午後7時30分まで。1日あたり20件ぐらいの返却があります。利用者からは評判が良く、これもおいおい増えていくと考えております。

産業・観光コーナーの実績 表2を参照

市民部次長：平成21年、22年、23年というふうに1日あたりの来場者数が年々減少しています。1回来た人がまた来るということが、なかなか今の状況では難しい。平成21年度は、菖蒲まつりの時に物品の販売等をおこなったが、なかなか今では難しくなっています。販売等ができないということが、件数が伸び悩んでいるというふうに考えています。

東京ドームグループの実績 表3-1、3-2、3-3を参照

ドーム：前回の時に、昨年は3月11日に震災があつて、その後、計画停電・節電・営業時間の短縮等々があつたことは報告しました。営業時間・日数が減ったので収入も減りましたが、光熱水費が削減になり、平成23年度、1年間の総計で収入が1億百万円、前年比で約三百万円の減でした。経費等の削減がありましたので、年間で10万円程度の黒字を計上したので、さしうのですが50%の成果配分を還元できました。

アンケート結果 資料、付表、平成22年度結果を参照

事務局：アンケートは平成24年2月28日（火）から3月23日（金）までの間、会場としては、2階は、地域サービス窓口、産業・観光案内コーナー、コンベンションホール受付の3ヶ所でアンケートボックスを置かせていただきました。3階は、総合窓口前、マッサージの「ささら」隣、カフェレストラン・イルソーレの3ヶ所で実施しました。それだけでは少ないので、窓口のほうで何枚か配っていただきました。

アンケート結果は、今日の利用施設を見ていただければ、2階のアンケートの地域（施設）ですと、見てのとおりで、ほとんど産業・観光案内コーナーと地域サービス窓口、3階は「ささら」が非常に多い割合であることが分かります。実際の利用者数は、「ささら」よりもマシジムとかスタジオのほうで圧倒的に多いですが、アンケートの回収数が少ないので、窓口のほうで積極的にアンケートに記載をお願いしたので、その結果だと思われまふ。

また、付表を見ていただければ、サンプルを初めて利用した人の多くが地域サービス窓口の利用者であることが分かります。また、逆に、マシジムとスタジオは、ほとんど初回利用がほとんどなくリピーターが多いこと、その他の施設がその中間であることが、22年度と同様に分かります。

スタジオプログラムについては増加の希望者が増えましたが、これは4月のスタジオのプログラム改変で夜間のプログラムが減少したということもあつて、その影響と思われまふ。

施設の感想、職員の対応、清掃とかの対応ですが、これらが同じ傾向で、平成22年度と比較して、「良い」と「悪い」が下がって「普通」が増えていふ。統計的に有意差が見られるほどではないので、これに関しては経年で様子を見させていただければと思ひまふ。

最後に、一番、我々にとって気になる、もう1回利用することを希望するかという最終的な項目に関してなのですが、これに関しては、前回ごさいませんでした利用したくないという方が1件ありましたが、それ以外を除くと結果としてはほぼ昨年通りという結果が出ました。

議論

委員：アンケートを（回答数）おおよそ百で分析するのは危険。どうやったらたくさんアンケートをとれるのか1回考えなければならぬでしょう。アンケートの意見内容を受け止めて欲しい。

委員：数字が上がったり下がったりしているが、キャパシティがないと何の意味がないでしょう。また、アンケートの数字は数字で、実際はどうなのか？ 住まいの所、男女別、年齢の登録というのはいふでしょうか？

ドーム：コンベンションホールの枠数とかは、今日は持ってきていふませんが、配布することは可能でふ。だれでも自由に気軽にということでは会員制はうたつていふません。定期券を買う時に最低限の年齢等の記載はいただくが、集計できるものはいふません。

委員：会員をとっている部分の男女比はいふますか？

ドーム：文化教室は出ます、定期券を買われた方の男女比は出ます。

委員：次回お願いしたいと思います。

委員：西口地域窓口の件数が増えていて、他の地域窓口はほぼ並ということですが、全体としては増えていますか？

市民部次長：今回はデータがございません。

委員：図書返却については、人件費は増えていますか？

市民部次長：増えていませんが、ここから中央図書館に持っていくのに委託業務が間に入ります。

委員：その分だけ経費負担が増えた、経費が増えたのはそれだけでしょうか。

市民部次長：はい。

委員：部門別の収益から、予定外に下回っているのはありますか？

ドーム：全体で三百万ほど減収。健康増進施設（スタジオ・マシジム）は若干損益、レストラン、ボティケア、イベントは非常に落ちました。コンベンションホールについては、利用は多かったですけど、節電時の利用制限が多かったので、その減収があります。

委員：負担となっているのはどこでしょう？

ドーム：2年度目に入り、震災があって、具体的にはこうだと言いくいです。貸し館のコンベンションホールの利用率が当初の30%から徐々に50%弱までになりました。これがあがってくれば

委員：利用範囲の拡大については？

ドーム：営利目的団体に貸し出すとかはされていません。

委員：東京ドームの他の施設では、何年ぐらいで利益がでるものなのでしょうか？

ドーム：サンパルネは他の施設とは違います。スポーツセンターや体育館では、目的のある人が黙って集まっていただけですので、枠数を増やすといっぺんで利用率があがります。サンパルネでも、回数券や夏場の子どもイベント等を企画しており、新聞折り込みをかけて利用者の増加を図りたく思います。前年は経費削減の成果が出ましたが、今年度は収入増を含めて黒字増を考えています。

副会長：建物の中で、このブースは失敗したとか、無駄だという所はないでしょうか？

ドーム：全部のブースで目標値に達していません。すべてを周知して利用を図りたく思います。運営上の無駄なところは削っていきたい。収入が出てくると、来年度に購入することができます。また、利用率が高い人がいると飽きがきます。体力がついた人、スポーツをやりたい人やトレーニングを強化することを希望する方はスポーツセンター、今後は高齢者、特定健診の運動療法とか、肢体不自由者の運動とかを進めて、差別化を図っていきたく思います。

委員：産業・観光案内コーナー、2年間にわたり減少していますこれに対する市の考え方は？

事務局：まずは市民に知ってもらう、知ってもらったうえでリピートしていただく。観光振興プランの中でのアンケートで、「知っている」が34%、「知らない」が58%。認知獲得に努めてきたけど、努力が足りなかった、達成されておりません。初めての人に知ってもらいたく思います。菖蒲まつり、6月の2週間で8万人。西口を降りて、どれだけアテンションができるということにあります。

市民の方には、市報、ホームページ、ここを観光ボランティアの拠点にして、どんどん露出していきたく思います。

委員：22年度にこれだけの人が来ていたのに減っているのは、リピート率が下がっているということ。それに対する対応は？

事務局：いつも同じようにせず、季節感を出す、演出をしたく思います。今、模索して努力している最中です。

委員：もともと、あんまり具体性がなく始まっています。魅力がありません。当初、この施設を設けるにあたっての少し基本から考え直す必要があるのではないのでしょうか？

事務局：目的施設なのか、ふらり施設なのかがあります。目的としては、あそこに行くといつもニュースがある形にしたいと思います。市民の方々が、ここをおれたちの拠点として、観光ツアーを始めて、人集めに努めたく思います。なお、6月20日に西武鉄道のウォークラリーでサンパルネを終点として使っていただくように働きかけとして、千人、二千人の集客が期待できるしかけをして、少しでも集客をアップさせたく思います。

委員：東久留米市の七福神巡りのように、役所を開けて、お店なんかを開いてやっています。そのようなことを市の中で考えていかないと、観光事業は進みません。月に一度、日曜日に私たちがコーナーに立って、皆さんとお話させていただいています。お客様をもう一度戻すという努力、同じ目線でやっていただかないと、とても難しいと思います。先週から都庁で菖蒲まつりのPRに行っているが、ソースを今日買いたいと言われます。隣のコーナーで置いてもらうように市のほうでやっていただくとか。私たちもできれば毎日立ちたいが限界があります。西武鉄道に頼んで、ここに導線を引けるかということを繰り返しやっていただくしかないでしょう。千人も二千人もやってきて、買えないのはショック。その時、市として、どのように対応するかということを一先懸命考えていただくと、そうすれば絶対に解決するでしょう。

市民部次長：観光プランの策定中に、東村山市の特色は駅が多いが活用されていないと言われました。西武鉄道さんとタイアップして、駅を利用した観光をできないか、そうするとサンパルネがその中の拠点のひとつになるでしょう。このサンパルネの集客を含めて、観光とそのPR、市内観光と観光案内コーナーのマッチングが生かされていないので、策定委員さんには継続して検討してもらって、皆さんの期待に答えるようなものにしていきたく思います。

会長：端的に言って、観光コーナーにまで来て、売ってくれたらいい。

委員：コンベンションホールの利用が少ない、商工会とか里に八国とかの販売はできないでしょうか？菖蒲まつりに頼りすぎています。残り11ヶ月をどうしているのでしょうか。ポールスターのキャンペーンしかり、うどんしかり、連動して西武鉄道を巻き込んで、東村山駅が拠点でなくとも総合的なものがないと難しいのではないのでしょうか。この委員会の要領の中に企画提案がありますが、私たちの小物雑貨市とか固定的な団体があるので、スポットでもいいから、来年や何年か先までスポットとかを使って予約を取れるのではないのでしょうか。コンベンションホールですが、また講演会をやっているとかわり映えしません。今、何やっているか分かりません。ポスターを貼るところがない、看板設置がありません。PR不足。3階でバンドをやっているけど2階は知らない、イルソーレだって産業観光の振興に役立つという部分だっていっぱいあるのではないのでしょうか。

会長：どういうふうにもとめていくか、直ぐにというわけにはいかないと思います。この会でバックアップするなり、お力を少しでも出せばなおいいと思います。市も全体として方向付けみたいなものが必要ではないのでしょうか。

委員：印刷室は結局どうなっているのでしょうか？

ドーム：印刷機は3階に移動、印刷室はコンベンションホールの控室となっています。あそこを貸し館として登録するには、利用料金とかの設定がございません。

事務局：印刷室を控室としたことで、(補足：大きなイベント等で) コンベンションホールと会議室と一緒に借りなくともすむので、会議室を別に貸せるのでプラスになっています。

委員：ウォークラリーの時、終点がここなら、コンベンションホールで八国の商品を揃えて販売する。菖蒲まつりの時、そこを全部借り切っているから販売するとか、そういった発想をしていかないと絶対進まないでしょう。

事務局：コンベンションホールを全部押さえるのは、一般の人が有料で借るとい形がありますので、現状では難しい。

委員：それで産業振興になるのではないのでしょうか。そちらのほうが、より大きな利益になると思います。お客様に対してどうあるか、お客様目線で物考えていかなければ絶対にいけないと思います。

委員：今の問題は、どこが運営主体になるかだと思います。今のルールでは産業振興課で企画を立ててやると言っても多分できないと思います。商工会が産業振興ということでやれば、それなりの理論立てはできますよね。

委員：どこがということは重要ではないと存じます。

委員：そうではなく、販売できないことがまず問題に思います。その崖を飛び越えない限りいけないと思います。

市民部次長：産業祭りもありますように実行委員会方式みたいのを立ち上げて、商工会とか市も入って、そこが主体として販売するとかは、理論的に非常に可能性が高い。それは今日の皆さんのご意見を承って、検討していきたいと思えます。

委員：東村山市菖蒲まつり実行委員会というのはないのでしょうか？

市民部次長：あります。そういう実行委員会なら可能性がありますが。今年はまだ終わっていませんから次回の課題で。

ドーム：コンベンションホール・会議室の貸し館部分で市が年間どれだけを使うというのが未確定のままスタートしています。明確に、この委員会で、コンベンションホールの利用促進ですとか、産業振興の促進とか考えられて、私どもにとっては収益があがる、利用率も高まる、市民あるいは外部から来るお客さまの認知も高まる、ということがあれば、当然積極的に推進したく思えます、推進しなければいけません。

委員：何%とか、取ればよろしいのではないのでしょうか。

委員：菖蒲まつりだから来年という話になっています。12ヶ月間、ここをフルに活用しながら地域振興していくことを考えた時、それにはこだわらず、商工会が窓口になって実行委員会をつくれれば産業振興になるから営利扱いではない解釈できるのかという部分を、詰めて次回の委員会の時に経過報告していかないと多分、先に進まないでしょう。

委員：今日言ったことで、具体的にこの次に何と何を返事してくれるか、決めておいて下さい。

市民部次長：ひとつには、この会場を使って個人の会社が営利目的で使うのは完全ダメということは明確ですが、観光なり、地域産業なりでの販売については明確になっていないので、管理所管より、そういった貸し出し方について考え方を整理させていただく。もうひとつが、菖蒲まつりの中で、ここでの物販が、実行委員会方式でできるのではないかということ。関係所管と検討して、次回に、はっきりした結論が出るか分からないですけど、少なくとも検討結果を持ってきます。

②菖蒲まつりについて 別紙資料参照

議論

委員：都庁でのPRで注目を集めたのは、花見だんごづくりが圧倒的でした。ファミリー層は完全にここに集中しています。それとユリは時期的に合わない、西武さんと連絡を密にして情報をいただければと思います。

会長：イベントは予定通りいきそうですか？

事務局：予定通り進んでいます。あと不確定なのはテレビ局ぐらい。

次回日程について

この会の機能を生かしていく、具体的には8月終わりぐらいで次回予定させていただく。